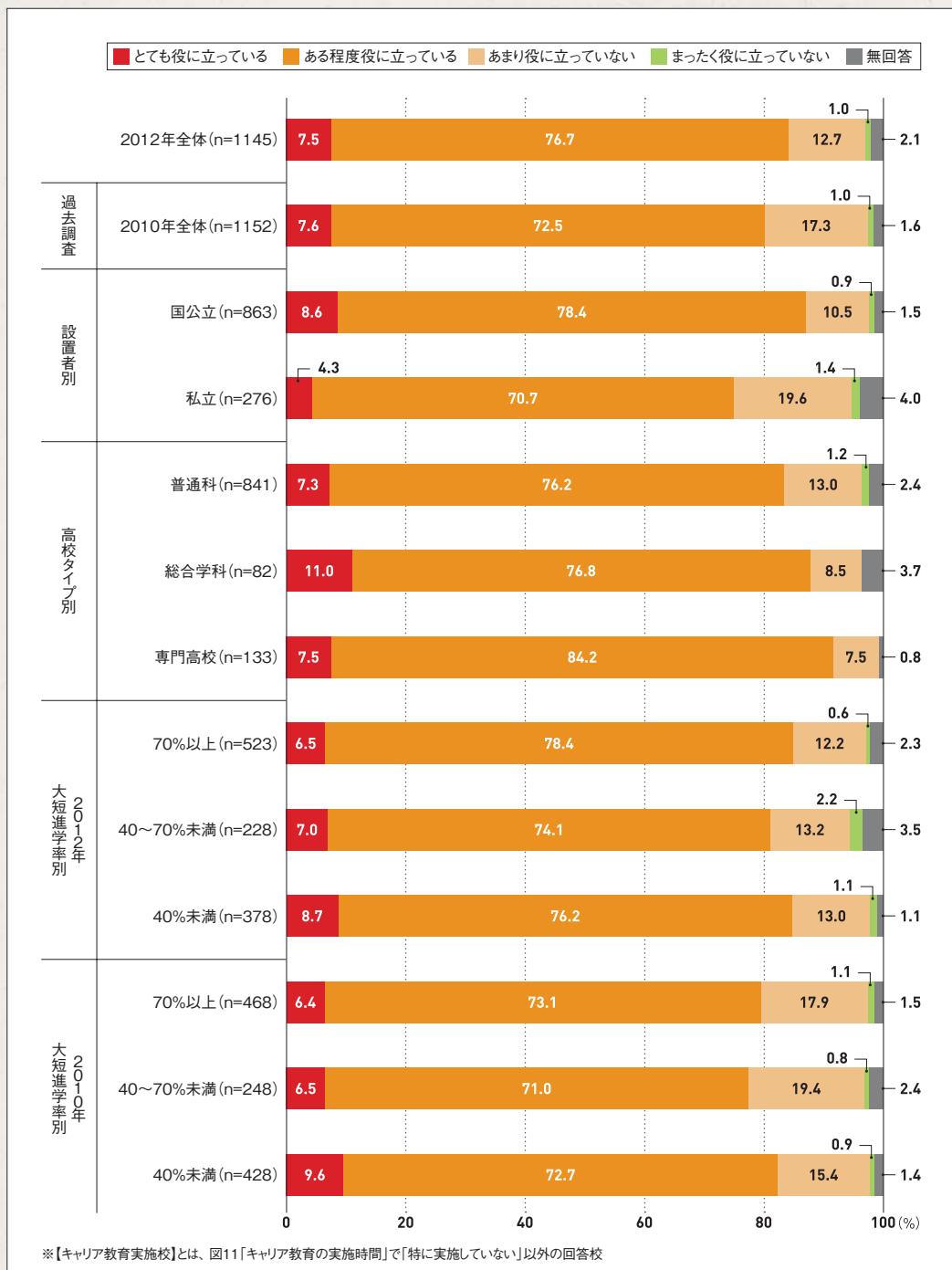


キャリア教育の役立ちはじ度

全体の84%が「役に立っている」

図14 キャリア教育は生徒の役に立っているか【キャリア教育実施校】※



※【キャリア教育実施校】とは、図11「キャリア教育の実施時間」で「特に実施していない」以外の回答校

自校のキャリア教育は生徒の役に立つているか、キャリア教育実施校に効果についてたずねた（図14）。「とても役に立っている」は8%、「ある程度役に立っている」まで合わせた84%が効果を感じており、前回80%から増加した。一方で、「あまり役に立っていない」「まったく役に立っていない」の合計14%は、前回18%から減少した。

キャリア教育実施校に関しては、「キャリア教育は役立っている」という見方が大勢を占めるようになつたといつてよいのではないだろうか。

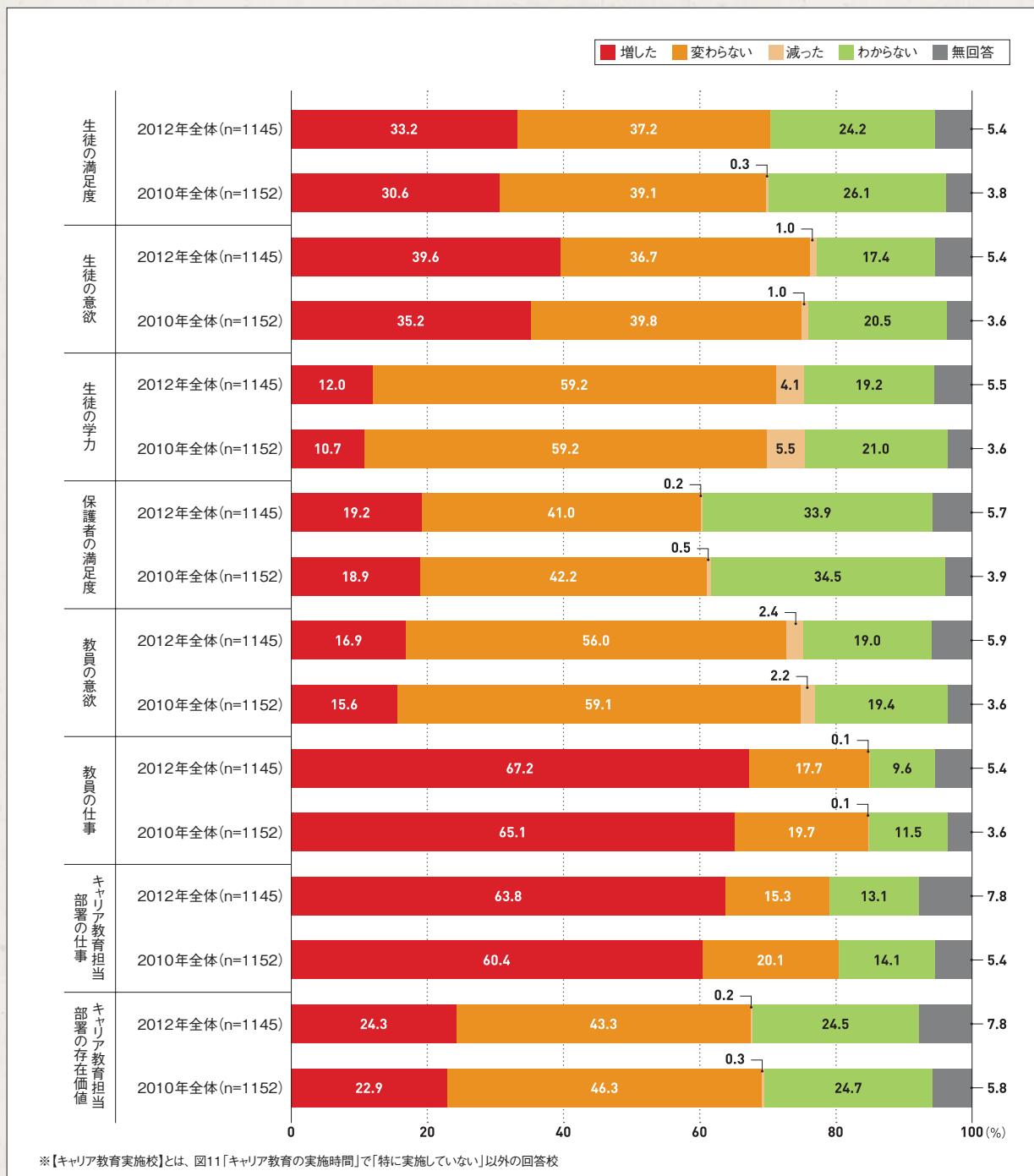
**前回よりも全般的に
効果を実感している**

設置者別では私立よりも国公立が、
高校タイプ別では普通科よりも専門
高校や総合学科での「役立っている・計」
の割合が高い。

大短進学率別に見ても、どの層も前
回より「役立っている・計」が増加した。

「増した」が最も多いのは「教員の仕事」

図15 キャリア教育による生徒・学校の変化【キャリア教育実施校】※



※【キャリア教育実施校】とは、図11「キャリア教育の実施時間」で「特に実施していない」以外の回答校

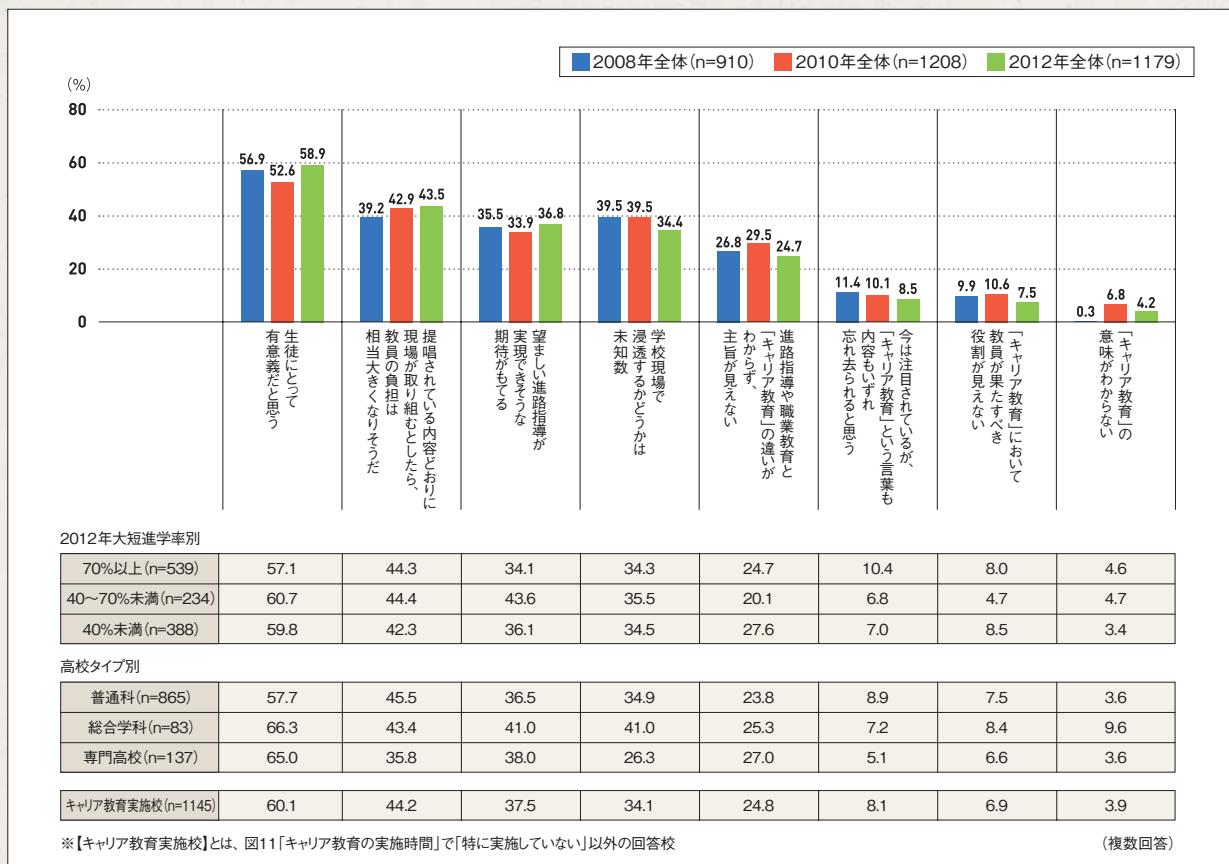
図15からわかるように、前回10年から今回12年にかけて、全項目で「増した」が増加。この図にはないが、実は前回08年から今回にかけて、全項目とも「増した」が増加している。すなわち、生徒の「満足度」「意欲」「学力」といったものが年々増している実感をもつ陰で、教員やキャリア教育担当部署の「仕事」も増え続けているという実感があるのだろう。

生徒の満足度、意欲など 全項目で「増した」が増加

図15からわかるように、前回10年から今回12年にかけて、全項目で「増した」が増加。この図にはないが、実は前回08年から今回にかけて、全項目とも「増した」が増加している。すなわち、生徒の「満足度」「意欲」「学力」といったものが年々増している実感をもつ陰で、教員やキャリア教育担当部署の「仕事」も増え続けているという実感があるのだろう。

キャリア教育実施校では、キャリア教育の推進によって何がどのように変化したと感じているのか。キャリア教育実施校に生徒の満足度や意欲、教員の意欲や仕事量など8項目について増減をたずねた(図15)。「増した」の割合が多かったのは、「教員の仕事」「キャリア教育担当部署の仕事」で、いずれも6割を超えた。以下はかなり離れて「生徒の意欲」「生徒の満足度」などが続く。「増した」が最も少ないのは「生徒の学力」で、「変わらない」も最も多かった。

図16 キャリア教育についてどう考えているか



フリーコメント5 キャリア教育についてそう考える理由

■生徒にとって有意義

- 生徒が、生涯に渡って学び続けることを通じて、自らの職業や働くことの意義も見出すことが期待できる（九州・沖縄/総合）
- キャリア教育は単に進路指導、職業教育にとどまらず、生徒の生きる力を育成するために大きな役割を担っている（東北/普通）
- 企業など外部の方に社会について語

ってもらうことによって生徒は確実によい形で変化していく（東海/その他）

■教員の負担は相当大きくなりそうだ

- 現任校については生徒の進路希望、学力が多様であり、個々に対応したキャリア教育を行うとしたら相当の時間が必要だと思われる。実際にここ数年で業務量が増加して土、日も休めない状態である（九州・沖縄/普通）

■望ましい進路指導が実現できそう

- 生徒の意欲が向上するだけでなく、教員自身のキャリア教育になり、学校全体の力がアップする（東北/普通）
- キャリア教育の取り組み開始時点では見えなかった成果が、毎年の積み重ねで、少しづつはあるが見えてきたような気がしているから（四国/普通）

ポジティブな意見が増加 ネガティブな意見は減少

2位の「提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ」は前回から微増。「学校現場で浸透するかどうかは未知数」「進路指導や職業教育と『キャリア教育』の違いがわからず主旨が見えない」「『キャリア教育』の意味がわからぬ」ともれる意見は、今回軒並み減少した。大短進学率別にみると、「40~70%未満」は前向きな項目のスコアが比較的高い。さまざまな課題の解決策のひとつとして、キャリア教育に期待が高まっているのかもしれない。

キャリア教育について自分の考えに近いと思うものをすべて選んでもらったところ（図16）、最も多かったのは前回と同様、「生徒にとって有意義だと思う」59%。スコアは前回より増加し、前回も上回った。3位の「望ましい進路指導が実現できそうな期待がある」というキャリア教育に前向きな意見も、前回より増加した。

フリーコメント6 キャリア教育を進めるうえでの障害

■教員の負担の大きさ

- 教員の負担が大きく、これ以上業務量を増加させることは難しい。進路指導部がキャリア教育も担っており、散漫になってしまふ可能性がある（南関東／普通）
- 普通科と商業科の併設であり、それに応じたキャリア教育プログラムを構築すると、教員の仕事量が膨大となる。授業時数を確保することと、プログラムの量との兼ね合い。教員の協力体制づくり（中国／普通）
- プランの作成や検証、県への報告などの事務処理の多さが教員の仕事を増加させ、キャリア教育に最も必要な生徒との面談、会話が減らされる（九州・沖縄／普通）

■実施時間の不足

- 各教科の授業時数が限られている中で、学習進度の問題と、キャリア教育にかかる生徒の学習時間の確保に問題が生じると思われる（東海／普通）
- 学校全体で考えていかないと「時間」がどれない。担任のみならず教科担任の指導も重要であり、教科の中で「キャリア教育のための時間」がどのくらいとれるかが問題となる（東北／普通）
- 学習指導要領が改訂されて、カリキュラム再編、学力向上となれば、総学の時間など減るかも？（九州・沖縄／総合）

■教員の知識・共通認識不足

- 教員の認識不足。キャリア教育を、單なる出口指導としかとられていない教員が、まだ少なからずいる（東海／専門）
- 全職員が、キャリア教育にますます共通した認識が必要であると同時に、社会環境も同じように動かないと難しい

(関西/普通)

- 出口（キャリア）支援と学力向上支援を行うセクションが異なるため、進路指導に一貫性をもたせることが大変難しい。教員間の進路指導に対する能力・意欲の差が激しく、歩調をあわせることが難しい（南関東／普通）

■教員のレベル、 トップのリーダーシップ

- 若い教員が多く、卒業後に社会人として身につけておきたい能力についての認識レベルが低い（東海／普通）
- 職員の理解と、管理職のリーダーシップ（九州・沖縄／専門）
- 教員そのものの教科指導力、生活指導力の不足（東北／普通）
- キャリア教育を実践されたことのある先生方が多くない。毎年内容の深さに差ができる（九州・沖縄／専門）

■学力向上や進学実績を優先

- 生徒にとって、通常の授業や講習に多くの時間が割かれるため、十分な活動時間が確保できないこと（北海道／総合）
- 時間の確保と、上級学校進学とのミスマッチ（南関東／普通）
- 大学進学への意識が希薄化してしまうところがあり、進学指導との兼ね合いが難しい（中国／普通）
- 生徒に「キャリア教育」を行う意義には異論はないが、現実問題として、進学学力の向上を目指し、希望進路を達成するための時間が必要であり、その時間を削ることはできない（四国／普通）

■生徒の意欲や学力の 低下・欠如

- 生徒の質が下がってきており、「やらざ

(南関東/普通)

- 基礎学力の不足と社会的関心の希薄さ（北関東／普通）

(北関東/普通)

- 生徒の労働意欲、学力の低下、毎年入学時点まで下がっている（関西／普通）

- 学力の二極化により学力の高い生徒、低い生徒双方を満足させられる内容の講座の設定が困難。この傾向が続ければ、ますますキャリア教育を進めていくのが難しくなると思います（九州・沖縄／普通）

■定義が曖昧

- 「キャリア教育」の定義が曖昧であり、浸透していない。進路指導主事、教務主任が知っている程度であり、指導にまで至らない。ただ「すべての教育活動＝キャリア教育」ならば全職員がやっていとも言える（九州・沖縄／普通）

- 本校におけるキャリア教育の位置づけが不明確。教職員のキャリア教育に対する意識の共有ができるかどうか（－／普通）

■その他

- キャリア教育をすれば、自己実現できるようになるという考え方方に問題がある。キャリア教育で学習時間を減らすのは間違い。何よりも学力があって、考える力や進路の多様性の理解が進む。落ち着いて十分に学習する時間を与えることが先決（北関東／－）
- 大学選びは「職業決め」から始める傾向が強くなっているが、「職業に名前のついている仕事」をしている人より「名前がない仕事」をしている人のほうが多いのだからもっと広い視野で考えてほしいと思うが、つい「職業を考えさせる」指導になっていることが多い（関西／普通）

「障害」を自由に書いてもらった（フリーコメント6）。前回同様に、教員の「負担感」や「多忙」を示すコメントが非常に多く見られた。26p記載のデータにある「教員の負担は相当大きくなりそうだ」という回答の多さと相通じる印象である。負担感のみならず、実際に行ううえでの「実施時間の不足」も非常に多くの回答者が指摘している。

教員の「キャリア教育に対する理解不足」や「社会情勢の認識不足」、それゆえの「教員間の温度差」。さらに、「管理職のリーダーシップ」を課題ととらえる回答者も多い。

学力向上に力を注ぎたい教員や高校からは、「キャリア教育で学力が向上すると思えない」「時間を取りたくない」という意見も寄せられた。また、キャリア教育を行うとしても、それを現実の進学先や就職先とマッチさせることが難しいという実践上の本質的な課題も挙がった。

学力向上につながるか という疑問

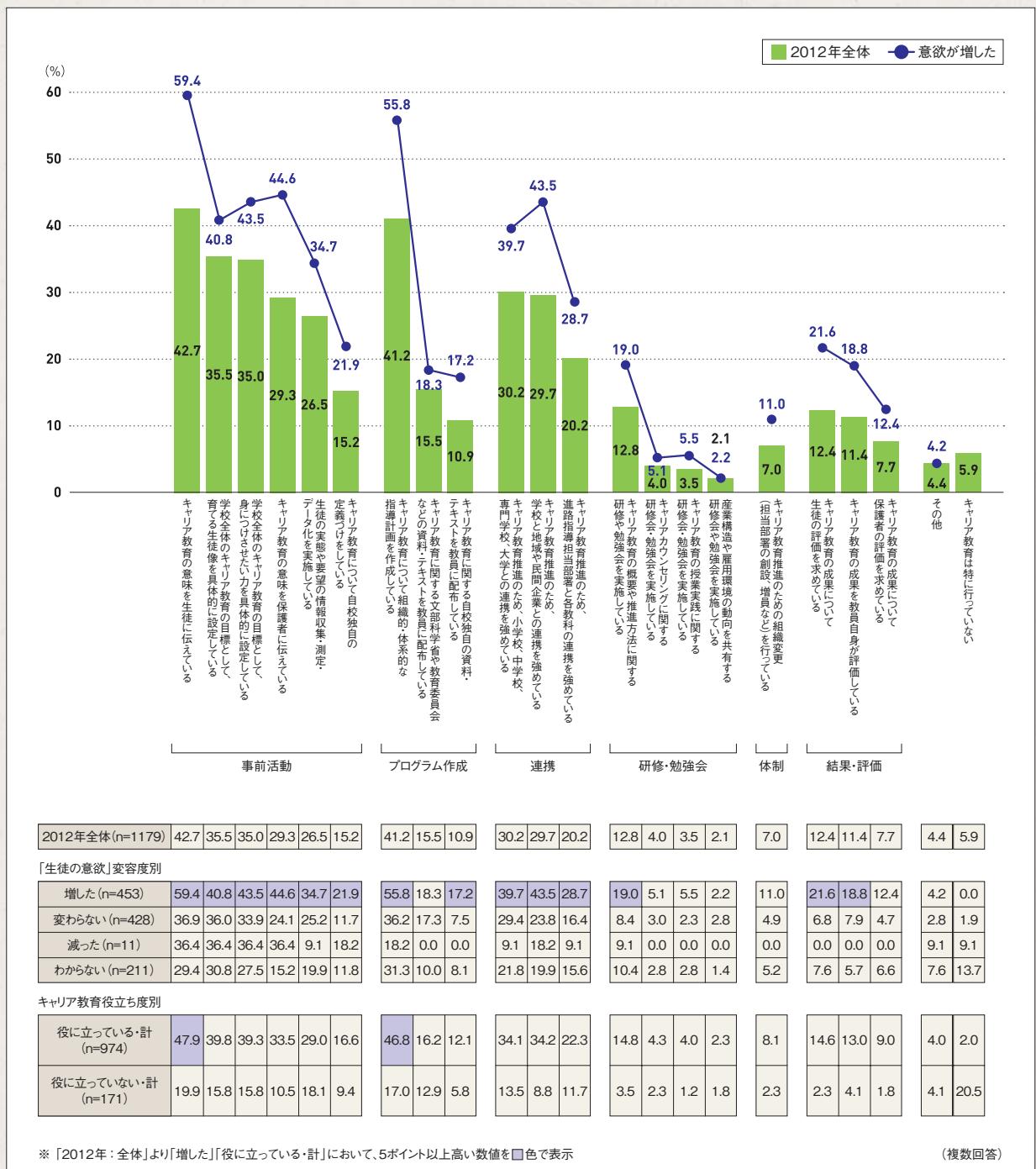
キャリア教育を進めていくうえでの「障害」を自由に書いてもらつた（フリーコメント6）。前回同様に、教員の「負

ト感」や「多忙」を示すコメントが非常に多く見られた。26p記載のデータにある「教員の負担は相当大きくなりそうだ」という回答の多さと相通じる印象である。負担感のみならず、実際に行ううえでの「実施時間の不足」も非常に多くの回答者が指摘している。

生徒の意欲が増した高校の特色

キャリア教育や進路指導の取り組みが活発

図17 キャリア教育の推進状況



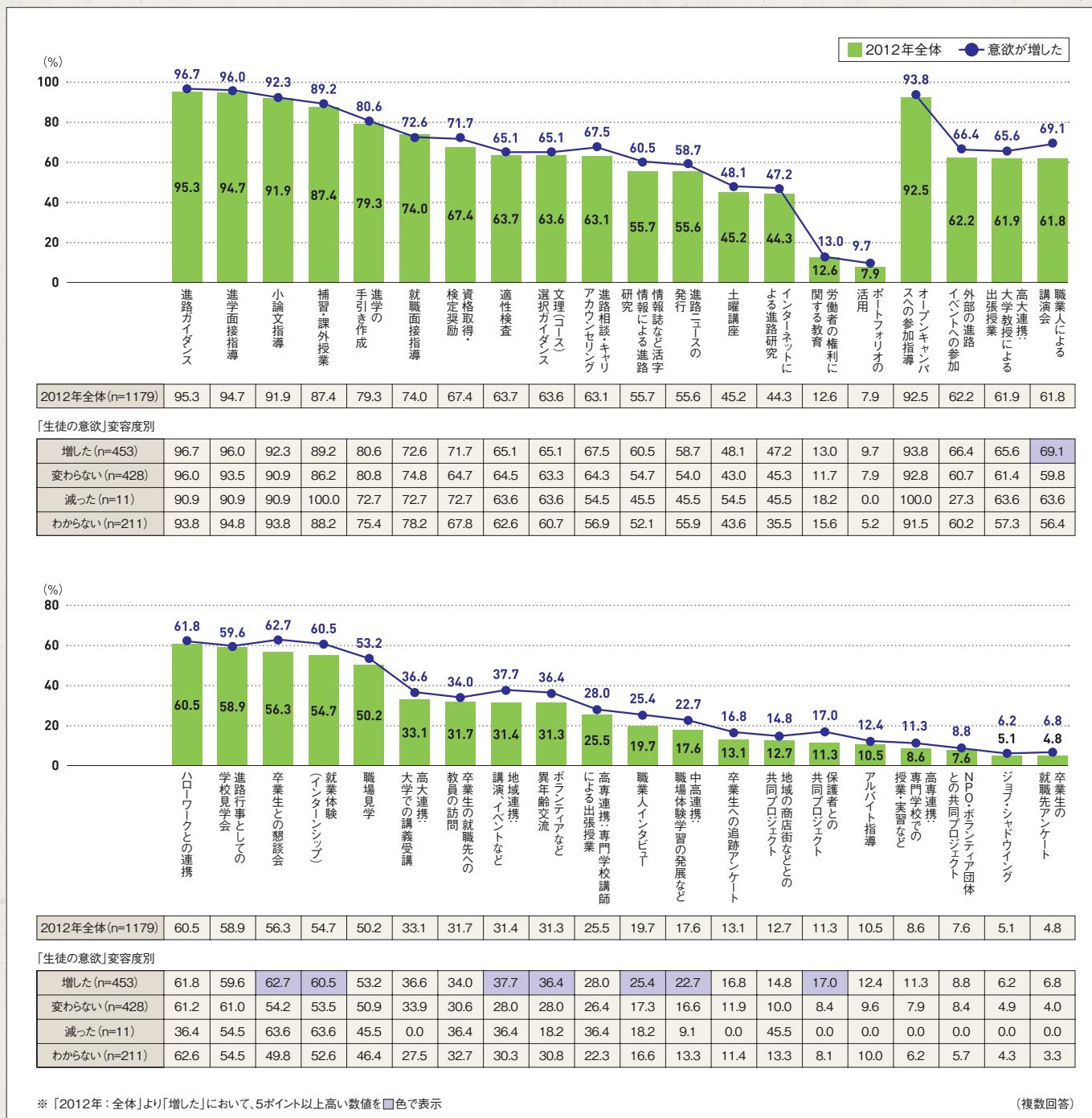
キャリア教育の推進により「生徒の意欲が増した」と回答した高校の傾向を見てみたい。図17はキャリア教育の推進状況(22p)を25pで取り上げた「生徒の意欲」の変容度別に見たもの。

保護者への伝達や地域・企業連携が充実

意欲が増した」と回答した高校の傾向を見てみたい。図17はキャリア教育の推進状況(22p)を25pで取り上げた「生徒の意欲」の変容度別に見たもの。

生徒の意欲が「増した」という453校が、全体に比べ5ポイント以上高くなっているのは表の青い部分。【事前活動】の「意味を生徒に伝えている」を始めとする全項目と、【プログラム作成】の「組織的・体系的な指導計画を作成している」、【自校独自の資料・テキストを教員に配布している】、【連携】の全項目、【研修・勉強会】の「概要や推進方法に関する研修や勉強会を実施している」、「結果・評価」の「成果について生徒の評価を求める」、「成果を教員自身が評価している」である。なかでも【事前活動】の「意味を保護者に伝えている」と【連携】の「地域や民間企業との連携を強めている」が非常に高い点が特徴といえるかもしない。

図18 現在実施している進路指導の取り組み(生徒対象①学校内完結②外部とのコラボレーション)のみ抜粋



立ち度別でも見たところ、いずれの項目も「役に立っている・計」が「役に立っていない・計」を上回った。キャリア教育の役立ち度と推進状況にも正の相関があるといえるだろう。

卒業生懇談会が活発

職業人講演会や

進路指導の取り組み状況と生徒の意欲との相関も見てみよう。**図18**は進路指導の取り組み状況(16・17p)を、25pで取り上げた「生徒の意欲」の変容度別に見たもの。生徒の意欲が「増した」高校はほとんどの項目が全体値を上回り、進路指導の取り組みが活発な様子だ。表の青色が示すように、「職業人による講演会」「卒業生との懇談会」「就業体験」「地域連携」「ボランティアなど異年齢交流会」「卒業生の共同プロジェクト」はとりわけ活発だ。加えて、「資格取得・検定奨励」「進路相談・キャリアカウンセリング」「情報誌など活字情報による進路研究」なども取り組みが進んでいる。

以上の結果によれば、生徒の意欲が増した高校は、キャリア教育や進路指導に積極的に取り組む傾向があるといえそうだ。